

人を見る目

(人を識る力)

永正十年六月、日本に明(み)の使者がきたとき、一行のなかには朱良範という観相家(くわんさう)がいました。この男が毛利元就を見つめて「あなたは、漢の高祖、宋の太宗の人相を兼ねておられる。将来必ず威を四方にふるわれるでしょう」と言いました。朱良範の言は、見当違いのお世辞ではなかつたようです。元就は智勇兼備の大器で、人材育成にも心をこめていた名將でした。

元就元年、出雲島根の陣で、家臣の岩木源六郎が左の膝口を射られ、矢の根が残って化膿(えき)しました。医者は、脚を切断しなければならぬと宣告しました。

わさやき

如仏

△新幹線より減法早い電車がすでに計画されているとか。高速道路同様、速さを競う世情は、いささか慌しい感じがするが如何。金と血と眼となつて金を追ひ、生産につく生産、電光石火の状況が何時まで続くのかモウレツ社員が哀れの末路を嘆き耳にしている。人間が機械にこき使われ、人間らしさを失った形骸だけの集りが今の日本の状態だ。田中さんの決断と実行は大賛成だが、もっと落ち着いてユックリ構えた上でやってもいい。

「わが君の神武はいまや中国に輝き、万民漢武の世に達したるがごとく悦び服しています」と元就はほめあげました。元就は不快な顔をして、「湯武の世には、汝のようなへつらいの家臣は一人もおらぬ。汝のようなゴマスリ儒者のいるところを見るに、われらが湯武に遠く及ばぬことを証明しているのも同然だ」といって悪態を吐きました。元就は家臣にむかって、「聞いたか。愚者のへつらいを。儒者はたのむにたふす。悪態こそは、ただ聖賢の書を讀み、ものを知らずではいるが心の憤しを知らずわれらが威勢を誇美し、われらに油断のスキをあたるばかりだ。なまじり学者、もの知りであつて心をわすれた者はおそろしい。中国のように交通の主役が自転車であるようにも少し静かになれないものかと思ふ。イライラはそこから生まれ、精神の異状も、各種の罪悪もそこから生ずるようになる。こころを正すように思はれる。」

△佐藤前総理は今年こそ思い切つたことを言いながら派閥均等の上で長期アグラをかいて何もしないで過して来たが、代わつた田中総理は早速の中国外交に力を入れ、拙速でないように折衝したい。新幹線もいらない。飛行機も庶民には不必要。それより日本を縦断する山でも削つて埋立地を増すと同時に日本海沿岸の雪を少なくしてもらいたい。

△大目良の屋台がぐらつたがなかつたが、社会共産の進出は花々しかった。公明社の低価格が可哀想に思われたが、それにそれだけの理由もあつたこと。その一つに日本人のイエス・ノーの精神が作用しているのも事実かと思う。全野党が一本になることはとても考えられないが自民党は大きな態度を示して

は三名です。猛然と元春勢は打つてかかる。隆景勢は退却してゆく。勢いに乗つて元春勢は追いつける。ところが、隆景のかくしていた名の伏兵が突如横手から突いて来たので、浮き足立った元春勢は負けてしまひました。元就は、息子たちの前へ出て「よし、双方に勝あり。合戦はそれまで」と二人を制しました。このとき元就は、心ひそかに将来の作戦を樹てたのです。

「この侍たちが成人した時は、嫡子隆元を旗本にし、元春、隆景を先鋒として四方を攻略しよう。こうして三子の特性を活用し、周防、長門、安芸を中心とした十州の太守になりなす。」

(月刊公民館より引用)

中里文芸 一月投稿

安 だれも凍り付いて吸う雪の風 彼の陰に冬はのびた、れり 深雪

えつお 炎つきき髪剃りの冬の月 暖冬の畦にものけしきかなり 涼子

大泉 新年を元々く明け来し雪の里 雪山越え雪より白き つかく

梅陽 太石に霜本ありし除夜の鐘 海峡はかなしかりけり冬の眉 芒月

芒月 丑年に養老年金もらひ初め 後かろく車見すにやけて尚小 電話でも受けます。

住居表示の實施により、町名番地の呼び方が変わったり、新しく集配局が設置されたため郵便番号が変わったりしている地域などがあります。整理する際には、特に注意をしましょう。

新野原朝平 (三) 田代
新野原朝平 (三) 堀沢町
新野原朝平 (三) 津南町
新野原朝平 (三) 津南町
新野原朝平 (三) 津南町
新野原朝平 (三) 津南町
新野原朝平 (三) 津南町
新野原朝平 (三) 津南町
新野原朝平 (三) 津南町
新野原朝平 (三) 津南町

今がチャンス 住所録の整理

日ごろ疎遠な関係でも、年賀状を交換して消息を確かめ合うのも楽しい一つですが、年賀状を受け取られたらこれを機会に住所録を整理したいかがでしようか。

人生往来

氏名 父の名 部落
根津 勝 茂 樹 桔梗原
瀬切 繁行 一 雄 芋沢
上原利恵子 賢一 郎 上山
鈴木 和人 辰雄 重地
山本美代恵 基一 郎 桂

◎高砂
文教政策にもっと力を入れたいものである。

1月1日現在

人	7,446 (- 6)
男	3,676 (- 6)
女	3,770 (+ 3)
世帯数	1,695 (- 3)

カッコ内は前月との比較

年頭の御挨拶

中里村長 藤田 五郎



明けましておめでとう御座います。昭和四十八年の輝かしい新年を迎えまして、村民各位の御健康と御多幸を心から御祈り申し上げます。

さて、昨年は沖繩の祖国復帰日中国交回復、田切り上げ、四次防衛問題、公害、土地、物価、教育問題から日本列島改造問題等々、明治維新以来の変動期であつたと申しても過言ではありません。

この変動期にあつて、村民各位の生活が優先するという基本理念のもとに、平和で健康で豊かな地域を建設する為、全力を傾注せねばならぬと考えながら村政に取り組みで参りました。昨年も多くの事業を手がけて参りましたが、概ね各位の御納得を得たつもりでありまして、それ等の事業につきましてはその都度「なかさと」で御紹介いたしました。主なるものは、高田一松山一六日町線の道路整備



せぬ前にその構想を發表することとは、不見識の極みであつた。せんので、村議會を通じての急進な進捗、芋川のヘツリ道路工事の進行、新屋敷と重地に隣接する新屋敷の建設、田中中学校教員住宅の建設、牧畑部落と阿部部落の二ヶ部落を合併移転、芋屋と山崎に消雪パイプ設置、倉保小中学校にプール新設、上山農免道路及び清津川右岸段段地開墾の農道を天々舗装いたしました。その他各地域から要望された圃場整備も完了。又村道十数ヶ所の改良と舗装、第二次構造改善による如来寺のライスセンターや機械化による省力化を計りました。治山事業として土倉に堰堤を施工、田代、西田尻、角間、芋川、下山、宮中、谷止工事が行われました。又林道では清田山、角間林道が工事完了し、その他小出、細戸、嶺、特に待望久しかった小沢、東山線が着工されたのであります。

昭和四十八年度計画につきましては、確定的なもの未確定のもの等多くの事業や問題を抱えています。国庫の予算が決定

雪国の二年続きの雪のない 寒有の里のお正月 山ひとつ越えた ちのこのスキー場では 手もちがたの正月だとか ラッパズボンに ブーツをはいて ガンナ若者がとび歩く 雪を求めて、スキーヤーが 原色豊かな服装で バス待つ時間もおもしろに 和服着て 雪駄で年始カラコロと 小雪で明けた七上三下 輝やかしい太陽と 清く澄んだ大空に向つて 今年も健やかに 過されますように。

季節のかお

一方農業構造改善を行い、省力化による余剰労働力の活用と工場誘致等々これ等が一大観光農業地帯として脚光をあびる日に向つて邁進せねばならぬが、その日を迎える迄の基礎作りには容易ならぬ努力を必要とする。ことを銘記せねばなりません。

本年もこの基礎作りと村政発展の為、鋭意邁進する決意でありますので、村民各位の絶大な御支援と御協力をお願い申し上げます。まして年頭の御挨拶といふまでもなく、

